発寒ひかり
保育園だより

2024年
6月号
巻頭言

我が家の5歳の息子は年長になり、年下の子を張り切ってお世話したり、「てつだうよ」とすすんで家事をしてくれたりと、日々成長を感じています。とは言え、まだまだ甘えん坊で、理屈はわかるけれど、気持ちをうまく整理できず、床にひっくり返って泣きわめくこともよくあります。

先日も、登園の支度を終え、いざ家を出ようとしたところで「やっぱりいかない」と急に座り込みました。その日は月曜日。行きたくない気持ちもわかります。私は出勤前の焦る気持ちを抑えつつ、穏やかに話をしてみましたが「いかない」の一点張りで、理由を尋ねても「やすむ」と言うだけ。そのうちに息子は物を投げ、壁を蹴り始めたため、徐々に私の声も大きくなり感情的に…。このままではいけないと、一旦深呼吸をして「保育園に行く気持ちになったら教えてね」と伝え、静かに待つことにしました。しばらく待っていると、自分から「がんばってほいくえんにいく」と涙目で話してくれました。私は息子をぎゅっと抱きしめ、「ありがとう。一緒にがんばろうね」と、二人で保育園へ出発しました。

『待つということは信じるということ』『子どもは待ってもらっている時間の中で、その子のペースで内面を育てていく』と、小児精神科医の佐々木正美先生は著書の中で話しています。時間に追われ、心に余裕がなくなりがちな毎日の中で、”待つ“ということの難しさ、大切さを改めて考えさせられる出来事でした。

さて、今年もファミリー懇談会が始まりました。子どもが何歳になっても、その時々で悩みは変わり、尽きることはありません。保護者同士、普段のお子さんの様子や悩み等について話し、共感したり、一緒に考えたりできる有意義に時間になれば嬉しいです。私たち保育士も、皆さんと思いを分かち合い、共にお子さんの成長を見守っていきたいと考えています。

主任保育士　青山　伊津美